

子供と間食

ひむかし

私共では子供に一切間食をさせないことに致して居ります。定りの食事は四時間おきにして、一日四度に決めて居りますが、させないときめれば、夫が習慣となつて、子供は別に欲がりもしませぬ。尤も、最初はやつて居りましたが、やり付けると、さあ夫が癖になつて、少し遊びに倦きてきますと、ぢき戸棚の所へ行つて、「うま〜」といつて仕様が有りませぬで、餘程前から、とう〜已めて仕舞ふことにしました。

一體、間食は大人でも、あまりよくはないことに決つて居りますが、夫が子供になると、世間では、「まあ子供だから」可愛相だから「といふ風にしてやつて居ります。勿論丈夫な子供ですと、大した

事も見えぬ様ですが、夫でも、やはりやりつけな習慣の方が宜しいと思ひます。まして、少し弱い質の子供に取つては尙更のこと、思ひます。私共でも食事と食事との間に、何か軽いお菓子の様なものをやる事にしようか、どうかと、餘程迷ひましたが、醫師の勧めもあり、かたく廢するにいたしました。夫で只今の處では、お客などの時、菓子を出して食べて居ましても、別に欲しかりもしませぬ。只、食事前三十分にもなると、そろ〜ねだり出して八釜しく言ひますが、夫でも外で遊ばして置けば、四時間は大丈夫、何も食べないでよく遊びます。而し、今は三つですが、これから先も、この習慣をつゝけたいと思つて居ます。

夫から子供の仕事につきて、も一つ注意すべきことは皆で一所に食事する時に、子供にいつて決

つたもの、他には、側からは何もやらぬことです。そうしますと、子供は自分の分丈を食べて仕舞へば、決して他の人が何を食べようが、ねだることはわりません

夫から間食させることとして、私共の経験やら、他から聞いた事に因りて見ますと、二歳位で、腸などのあまり丈夫でない子供によくないものは、第一、餡氣のものは無論行かせぬ。夫から甘薯も行かせぬ。かるやきは、お醫者はあまり悪くは言ひませぬが、これで失敗つた人は、随分聞きました。ビスケット、園の露など、二歳未満の子供には矢張り宜しくありませぬ、これはお醫者も言ひます。比較的一番安全に思はれるのは、ウエーフワースといふお菓子です。菓物は必ず下劑を起します。

貞一の日記 (明治卅六年五月) (抜萃)

卅一日生男兒 (承前)

その母

四月七日 今日、朝より、天氣も宜しき故、久し振にて、上野へ遊びに行き、歸途草履をはきて歩いて歸る。午後も、門外にて犬と、戯れて遊ぶ。

四時過ぎ、急に元氣なくなり、ウン／＼ジヤイ (痛イ) など云ふ、母に抱かれてばかり居りしが、二回吐す。食後二時間も、経過せし事なればか、水様のもの許りなりき、夜に入りて佐々木先生を迎ふ。(小原先生の代診) 熱は七度八分なり、今の所にてはインフルエンザの様なり、然し當時麻疹流行し居れば、油断はならず、どうか、それにならぬ様したき者なり、今の健ならぬ身体に、麻疹にならば、他の恐ろしき余病